

公益財団法人 全国学校農場協会 事業報告

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

公益財団法人 全国学校農場協会

## <概要>

平成25年4月1日付で内閣府の認定を受け、公益財団法人全国学校農場協会が発足した。これまでの特例財団法人全国学校農場協会の事業を引き継ぐと共に内容を精査してのスタートとなった。5月17日に第1回理事会を開催し、25年度の事業計画書の件、収支予算書の件、理事・監事選任の案件について承認された。

農業教育（農業技術）の発展と振興を図る事業（公1）として以下を行った。全国大会・支部大会での農業教諭による研究発表及び各界のリーダーをお招きしての講演会を開催した。また農業教育研究協議会では農業教育に関する調査・研究の成果の発表及び昆虫学者・佐々木正己先生の講演を行った。農業教育功労者表彰は全国147名の方に贈られた。シンポジウムについては大学・各種団体の協力を得て、主催・共催・講演を含め4回開催した。学術・科学技術の振興を図る事業として全国6地区で農業実験実習講習会を実施した。この講習会は教員免許状更新講習の選択領域を文科省から認可されており112名の参加を数えた。農村文化・芸術・文芸に関する事業では、日本農民文学会との共催による全国農業関係高等学校エッセイコンテストを実施したところ全国から多くの応募があり青森県の生徒が最優秀に輝いた、原稿はホームページ上に掲載した。また、里山音楽祭を埼玉・山形の2会場で開催し、農業と芸術との近い関係について多くの方々から知っていただく機会となった。

認定1年目であったが事業計画書に予定された事業について多くの関係者の協力によって概ね実施できた。反省点・改良すべき点などを踏まえ、次年度に生かして行きたい。

公益財団法人全国学校農場協会の事業に関する報告や成果については平成26年3月1日発行の**第51号研究集録**内に詳しく掲載されている（3月期事業については第52号に集録予定）。

## I 会員の動き

### 1) 協賛会員の状況（平成26年3月31日現在）

支部別協賛会員数

北海道支部	394名	
東北支部	911名	
関東支部	1552名	
北信越支部	493名	
近東支部	1134名	
中国支部	560名	
四国支部	395名	
九州支部	1368名	
本部個人会員	22名	総数6829名

## II 各種事業活動の実施報告

### <農業教育（農業技術）の発展と振興を図る事業（公1事業）>

#### 1) 研究発表及び教育行政・農政・学術・学際的講演による農業教育を推進する事業

\*原則一般公開、開催・内容については本協会ホームページにて告知する。

##### 全国大会講演

講演1. 全国大会講演 「教育の原点としての農業」 JT生命誌研究館館長 中村 桂子 先生

講演2. 農業教育研究協議会講演 「いまミツバチを飼育する意味」 玉川大学名誉教授 佐々木 正己 先生

農林水産行政をめぐる最近の状況 農林水産省経営局就農・女性課長 榑 浩行 先生

初等中等教育の課題について 文部科学省初等中等教育局主任視学官 望月 禎 先生

##### 支部大会講演

北海道支部「北海道の農業教育についての一視点」 酪農学園大学長 干場 信司 氏

東北支部「一步前に出よう」 株式会社 木村興農舎 木村 秋則 氏

関東支部「日本の田舎は宝の山」 NPO法人えがおつなげて代表理事 曾根原 久司 氏

北信越支部「世界農業遺産と里山里海：地域社会の持続的発展に向けて」

金沢大学特任教授 中村 浩二 氏

近 東 支 部 「これからの農業教育の方向性」

国立教育政策研究所教育課程研究センター  
田畑 淳一 氏

「提案と人材育成」

株式会社Citu s 農学博士 佐々木 茂明 氏

中国支部「豊かな明日を創る農・食産業」

吉備国際大学地域創成農学部 眞山 滋志 氏

四 国 支 部 「食料・農業・農村をめぐる情勢」

農林水産省中国四国農政局次長 石田 寿 氏

「人はだれでも主役になれる」

株式会社いんどり 代表取締役社長 横石 知二 氏

九 州 支 部 「世界における国内農業の位置づけと意識の改革 グローバルGAPから見える今取り組む事」

株式会社ファーム・アライアンス・マネジメント

代表取締役社長 松本 武 氏

「九州における農業の6次産業化」

九州沖縄農業研究センター主任研究員 後藤 一寿 氏

「魅力ある畜産教育の可能性」

中九州学園 理事長 後藤 和文 氏

「食を通して明日を考える」

食と農の体験 塾長 宮田 研蔵 氏

「私の使命 若い世代の挑戦」

株式会社宮川洋蘭 専務取締役 宮川 将人 氏

### 全国大会研究発表

「生徒の興味関心や科学性を伸ばす取り組み」 北海道岩見沢農業高等学校 加藤 和則

「未来の子どもたちに何を残すか。そのために私たちは何をすべきか〜食と農と環境を結ぶ農業」

富山県中央農業高等学校 室井 康志

「農業教育現場における指導方法に関する実践」 広島県油木高等学校 速水 修史

### 支部大会研究発表

北海道支部	北海道の次代を創る新しい農業教育の推進	富良野緑峰高等学校	唐橋 利美
	〃	美唄尚栄高等学校	進木 澄人
	教科と連動した特色ある農場づくり	岩見沢農業高等学校	吉田 良徳
	生き生きと取り組める学校農業クラブの指導	十津川農業高等学校	保木本 敬一
東北支部	教科指導	山形県上山明新館高等学校	阿部 正彦
	〃	宮城県加美農業高等学校	高杉 隆範
	〃	青森県弘前実業高等学校	山口 昭一
	生徒の個性を伸ばすキャリア教育の推進	山形県村山農業高等学校	岩谷 郁実
	〃	宮城県農業高等学校	阿部 由
	〃	青森県名久井農業高等学校	小笠原 理高
	農業教育の充実・振興	福島県安達東高等学校	伊藤 仁
	〃	岩手県盛岡農業高等学校	熊谷 成子
	〃	秋田県金足農業高等学校	宮腰 明
関東支部	豊かな人間性を育む農業教育の実践（共通テーマ）		
	移動動物園を通しての地域の人々とのふれ合い	東京都瑞穂農芸高等学校	鈴木 一衛
	鉢植えフリージア栽培への取り組み	茨城県水戸農業高等学校	宮地 富雄
	植物成長調節物質を活用した地域実践	静岡県富岳館高等学校	望月 基希
	群馬県での農業土木・造園の取り組み	群馬県藤岡北高等学校	大竹 真和
	キャリア教育実践プログラム	神奈川県中央農業高等学校	加来 功
	42年間の歴史と地域との連携	栃木県小山北桜高等学校	関口 邦彦
	初級園芸福祉士の資格取得と科目「生物活用」	千葉県成田西陵高等学校	桑田 美和
	食品系学科の新商品開発の取り組み	埼玉県川越総合高等学校	中山 伸一

北信越支部	農業教育とキャリア教育の課題	新潟県長岡農業高等学校	鈴木 英明
	デュアルシステム型長期委託研修	富山県入善高等学校	福田 剛
近東支部	生徒の意欲関心を高め、自己肯定感・有用感を涵養する教育活動	石川県津幡高等学校	松井 元雄
	生産・流通科目の内容と効果的な指導	滋賀県八日市南高等学校	伴 宗弘
	〃	大阪府園芸高等学校	酒井 さとえ
	〃	奈良県磯城野高等学校	田中 新也
	食品加工系科目の内容と効果的な指導	岐阜県大垣養老高等学校	安田 圭奈
	〃	三重県明野高等学校	近藤 博巳
	〃	和歌山県南部高等学校	岩橋 孝朗
	環境・ヒューマンサービス系科目の内容と効果的指導	京都府農芸高等学校	倉地 新也
	〃	愛知県猿投農林高等学校	雨宮 永
	〃	兵庫県有馬高等学校	松原 未来
	農業教科を生かしたキャリア教育の推進	奈良県吉野高等学校	久見 宗資
	〃	滋賀県湖南農業高等学校	光永 歩
	〃	大阪府枚岡樟風高等学校	倉橋 崇之
	地域と歩む魅力ある農場経営	和歌山県熊の高等学校	城貝 裕久
〃	岐阜県加茂農林高等学校	小川 正樹	
〃	三重県相可高等学校	堀内 洋二	
心に生きる農業クラブ活動の推進	兵庫県篠山産業高等学校	沼田 秀人	
〃	京都府北桑田美山分校	渋田 清孝	
〃	愛知県渥美農業高等学校	榊原 範恵	
中国支部	地域と連携し知識と実践力を育む農業教育	山口県大津緑洋高等学校	日置校舎 石橋 和弘
	世羅台地の特産物を用いたブランド商品の開発	広島県世羅高等学校	篠原 博徳 梅原 直樹
	地域に根ざした環境創造・素材生産・バイオテクノロジー分野の実践力を育む教育	島根県益田翔陽高等学校	黒目 光美
	地域に生きる学校づくり	鳥取県智頭農林高等学校	山田 希仁
	学校農場を活用した6次産業教育の推進	広島県庄原実業高等学校	末田 綾希子
農業高校での起業化教育	岡山県高松農業高等学校	高原 英次 佐野 敏樹 広田 耕治	
四国支部	高校生の農村環境保全活動	香川県石田高等学校	中村 勝典
	農業科での生活科学科のあり方	愛媛県大洲農業高等学校	森 洋明
	環境保全型農業への取り組み	高知県高知農業高等学校	山本 輝明
	地域の資産を生かし、地域と共に育つ学校	徳島県小松島西高等学校	勝浦校 青木 満博
九州支部	<共通テーマ>		
	21世紀生き抜く力を育み、進化し続ける農業教育の創造		
	学校農産物ブランド化を中心とした取り組み	佐賀県佐賀農業高等学校	石橋 誠
	情報発信力の育成を目指して	熊本県菊池農業高等学校	中西 智大
	本校の畜産教育の取り組み	大分県三重総合区党学校	佐藤 晃
	畜産教育における6次産業化の展望	沖縄県北部農林高等学校	下地 成人
	ライフデザイン科と交流活動	宮崎県都城農業高等学校	野上 修五郎

地域が望む農業高校を目指した取り組み  
植物バイオ教育のあるべき姿

福岡県糸島農業高等学校 善積 徹  
鹿児島県霧島市立国分中央高等学校  
辻村 照隆

希少植物「黄平戸ユリ」の保護・増殖と活用 長崎県北松農業高等学校 竹田 光広

### 農業教育研究協議会での発表

植物系学科における栽培交流体験の取り組み 埼玉県川越総合高等学校 橋本 博行  
動物系学科における科目「総合実習」の実施と評価について 栃木県鹿沼南高等学校 藤澤 暢恒

## 2) 農業教育功労者表彰及び感謝状の贈呈

平成25年6月17日に農業教育功労者審査会を開催した。この表彰は申請から審査・授与まで農業教育功労者規程に基づき決定された。審査の結果本年度は全国147名の受賞者であった。

### 平成25年度農業教育功労者表彰審査結果

支部	申請者数	合格者数	不合格者数
北海道	1	1	0
東北	23	22	1
関東	46	43	3
北信越	12	12	0
近東	34	32	2
中国	4	4	0
四国	7	7	0
九州	30	26	4
合計	157	147	10

#### 審査委員

大橋 幸男 田原 良敏 戸塚 厚生 橋本 倉司 末松 茂孝  
太田 和也 小林 俊徳 風間 龍夫 松戸 多良 鈴木 隆  
表 彰

本会規定により平成25年度支部大会で表彰した。

## 3) 農業教育・環境教育に関するシンポジウムの開催（共催）をする事業

### ○近世から近代への三富新田～三富新田の歴史と知恵（共催）

平成25年4月20日 埼玉県所沢市 講師 松本富雄氏（元三芳町民俗資料館 館長）

### ○棚田学会シンポジウム「棚田と観光」（共催）

平成25年8月2日 東京都三越劇場

講演 雲南省・ベトナム・フィリピンの棚田（高木 宏明 食品コラムニスト）

韓国全羅南道青山島の棚田（劉 鶴烈 韓国忠南発展研究院責任研究員）

インドネシア・バリ島の棚田（山路 永司 東京大学大学院教授）

石川県輪島市白米千枚田（山下 博之 輪島市企画課長）

中国・広西チワン自治区龍脊の棚田（菊地 真純 早稲田大学国際教養部助手）

### ○第1回農業女子フォーラム

平成25年11月23日 東京都立園芸高等学校（主催）

講演 私のライフスタイル～南阿蘇での農業農村ライフとこれからの展望（大津 愛梨 02ファーム）

美味しいものを追求めて～畑はヘルシーの根源（丹羽 なほ子 丹羽農園）

女子・コンバインに乗る～農業機械を使い倒せ（沼尾 ひろ子 篠井ファーム）

就農する若者への支援・女子就農者への援助（有富 真麻 農水省経営局 就農・女性課）

パネラー 千賀 裕太郎（東京農工大学名誉教授） 田邊 敏憲（埼玉大学大学院客員教授）

川野 了（農業高校支援機構）都内農業高校生3名

○武蔵野里山イニシアティブ「武蔵野里山を未来へ 農業資源は宝の山だ」

平成25年12月8日 埼玉県立川越総合高等学校（主催）

講演 武蔵野の自然と農業（松本 富雄 元三芳町歴史民俗資料館長）

武蔵野（三富）の現状と未来について（鬼頭 秀一 東京大学大学院教授）

美しい農村景観と武蔵野里山（千賀 裕太郎 東京農工大学名誉教授）

未来へ向けた武蔵野里山の活用と農業の自立（田邊 敏憲 埼玉大学大学院客員教授）

コーディネーター 徳山 郁夫（千葉大学名誉教授）

○東北里山イニシアティブ 3Fフォーラム@東北

平成26年3月27日 山形市文翔館（主催）

講演 被災地農業高校の復旧・復興の現状と課題

（川口 友和 宮城県農業高等学校教諭 橋本 昭次 福島県立福島明成高等学校教諭）

バイオエネルギー革命と農業・農業教育の未来～再生可能エネルギーを軸とする地域成長戦略

（田邊 敏憲 埼玉大学大学院客員教授）

パネルディスカッション

パネラー 古在 豊樹（千葉大学名誉教授）千賀 裕太郎（東京農工大学名誉教授）

村松 真（山形大学准教授）大泉 忠昭（KK月山じょいふるふぁーむ社長）

コーディネーター 犬塚 潤一郎（実践女子大学教授）徳山 郁夫（千葉大学名誉教授）

4) 学術及び科学技術の推進を目的とする事業

実験実習講習会及び教員免許状更新講習（講習詳細は別添資料①）

全国6地区で実施した。受講者は112名、この内、教員免許状更新講習対象者は60名であった。

○講習会概要と受講生数

- ・北海道地区「畜産・食品製造」 帯広畜産大学 平成25年8月5日～9日 16名  
講師 三上 正幸（名誉教授）日高 智（教授）倉園 久生（教授）島田 謙一郎（准教授）
- ・東北地区「食品化学」 郡山女子大学 平成25年7月29日～8月2日 22名  
講師 広井 勝（教授）藤本 健四郎（教授）正司 一郎（教授）諸岡 信久（教授）  
影山 志保（講師）郡司 尚子（助教）
- ・関東地区「農業機械」筑波大学生命環境学群生命資源学部 平成25年8月5日～9日 18名  
講師 瀧川 具弘（教授）野口 良造（准教授）源川 拓磨（助教）
- ・近東地区「農業と環境」三重大学生物資源学部 平成25年8月26日～30日 20名  
講師 江原 宏（教授）成岡 市（教授）掛田 克行（教授）水野 隆文（准教授）長屋 祐一（准教授）  
近藤 雅秋（助教）奥田 均（教授）三島 隆（准教授）長菅 輝義（准教授）
- ・中国地区「農業と環境」山口大学農学部 平成25年8月5日～9日 19名  
講師 高橋 肇（教授）横山 和平（教授）山本 晴彦（教授）荻木 康臣（教授）藤間 充（准教授）  
荒木 英樹（准教授）
- ・九州地区「野菜」 独立行政法人 農業・食品産業技術研究機構 平成25年8月5日～9日 17名  
講師 坂田 好輝（研究調整監）曾根 一純（グループリーダー）沖村 誠（グループリーダー）  
大和 陽一（グループリーダー）

教員免許更新講習は更新に必要な30時間の内、選択領域の18時間分が文部科学省から認定されている。  
今年度、農業教諭以外からは家庭科教諭の参加が若干名あった。

5) 調査研究

本財団研究局では6つの教育課程専門部会（植物系部会・動物系部会・食品系部会・環境系部会・流通系部会・ヒューマンサービス系部会）を設け農業教育に関する調査研究を継続的に行っており、現場での農業教育実践に生かされている。また、農業高校の特色ある取り組み・大学推薦入学の調査も行っている。これらの結果は

農業教育研究協議会及び研究集録、ホームページで公開している。

平成25年度の報告（植物・動物系部会は農業教育研究会で発表している・・農業教育研究協議会の項参照）

- ・食品科学系学科での特色ある教育課程の編成について
- ・環境系学科での魅力ある取り組みについて
- ・科目「農業情報処理」の取り組みについて
- ・科目「グリーンライフ」に活かせる特色ある事例の紹介

## 6) 花育読本の作成

小中学での総合的学習の時間また技術家庭科の生物育成に関するサブ教材として花育読本の作成に協力した。主体は全国花育活動推進協議会であり、農水省補助事業指定を受けて約10000部の冊子を作成、全国の学校へ無料で配布した。

## 7) 地域文化（文化・芸術・文芸）振興に関する事業

### 全国農業関係高等学校エッセイコンテストの実施

日本農民文学会との共催によるエッセイコンテストを実施した。今年で5回を数える。全国の農業系高校より370作品の応募があり厳正な審査の結果、以下の様に入賞者が決定した。入賞者には賞状・賞品を授与した。

平成25年度最優秀賞 「私の将来の夢」 中村 優希菜 青森・名久井農業高校  
優秀賞 「信じよう農業の未来を」 野澤 美祈 栃木・宇都宮白楊高校  
「動物実験」 野口 百夏 静岡・田方農業高校  
「祖父の思い出から学ぶ食料の大切さ」 小泉 彩音 京都・綾部高校  
「ヒートアイランド現象と植物」 石坂 暢琢 大阪・園芸高校  
「大好きな牛と共に」 河野 優 高知・高知農業高校

なお、審査会を平成26年1月15日に、1月21日にホームページで発表した。

審査委員は次の様である。

木村 芳夫（日本農民文学会会長） 飯塚 清治（日本農民文学会事務局長） 野中 進（日本農民文学会編集長）  
日置 司明（公益財団法人全国学校農場協会理事長） 久保田 弘（全国高等学校農場協会会長）  
田中 平一（公益財団法人全国学校農場協会事務局次長）

## 里山芸術祭の開催

### ○里山讃歌音楽祭KAWAGOE2013（後援）

平成25年12月27日 川越市・市民会館

今年で2回目を迎える音楽祭は、川越市内の農業系高校である埼玉県立川越総合高等学校と音楽系大学である尚美学園大学が「農と音楽」の交流の成果を発表するために始まった演奏会である。音楽を通して多くの方に武蔵野里山の魅力と大切さを伝える機会ともなっている。

プログラム

スメタナ作曲 交響詩「わが祖国」からモルダウ  
坂田 晃一作曲 合唱組曲「宮沢賢治の三つの風景」  
ベートーベン作曲 交響曲第9番「合唱付き」から第4楽章

指揮

坂田 晃一（作曲家） 河合 尚市（指揮者）

### ○里山讃歌音楽祭TOHHOKU（主催）

平成26年3月27日 山形市・文翔館

山形市で開催した3Fフォーラム@東北に合わせて音楽祭を催した。この演奏会には山形大学の全面的協力を頂いた。特に山形大学フィルハーモニーオーケストラ・混声合唱団・音楽芸術コースの学生のみなさんの力は大きかった。

## プログラム

坂田 晃一編曲 美しい日本の四季（早春賦・朧月夜・夏は来ぬ・小さい秋見つけた・冬の夜）

坂田 晃一作曲 NHK朝の連続小説「おしん」のテーマ

坂田 晃一作曲 宮沢賢治の三つの風景～向こうも春のお勤めなので・コバルト山地・雲の信号

今回のプログラムは全て坂田晃一先生の作品であり、指揮もご自身が振られた。芸術の根っこは農業であるとの先生の考えが反映した音楽会となった。

## 8) 広報活動

本財団の広報活動は新聞・ホームページによる。

### 公益財団法人全国学校農場協会新聞の発行

季刊とし、年四回の発行。会員に郵送している。主に本財団の事業についての予定及び報告が中心である。

### ホームページ

本財団の事業内容を含む財団の概要を掲載するとともに会員及び一般の方に対して農業教育に関する研究成果の公表、研究会・シンポジウム等の告知、協力他団体との情報公開などに努めている。

また、講演会・シンポジウム・フォーラムの様子は出来る限り映像に収めホームページ上のコンテンツとして公開した。さらに可能な限りリアルタイムでのU－S t r e a m配信を行った。

## III 公益財団法人理事会・評議員会の開催状況

### 1) 理事会

平成25年5月17日	農場協会会館	平成25年度事業計画・収支予算書（承認）	連絡事項
平成25年8月30日	農場協会会館	事業の進捗状況（報告）	農業教育功労者表彰（承認） 理事会運営規程について（承認）
平成25年11月20日	農場協会会館	第5回エッセイコンテストについて（承認）	連絡事項 フォーラム・シンポジウムの開催について（報告） 農業教育研究協議会の講師の選任（承認） 農業教育研究集録の編集方法（承認）
平成26年3月7日	農場協会会館	平成25年度事業の報告（実験実習講習会 他）	連絡事項 平成26年度事業計画について（承認） 平成26年度収支予算書について（承認） 寄付金規程について検討されたが次年度、改めて検討することとなった。

### 2) 評議員会

平成25年6月14日	農場協会会館	平成25年度事業計画、収支予算書、評議員会運営規程について審議し承認された。また、シンポジウムに関する示唆に富んだ意見があり、運営上の参考になった。
平成26年3月20日	農場協会会館	平成25年度事業についての問題点や改善すべきことについて意見交換をした。また、平成26年度事業について、美しい農村のフォトコンテストについて提案があり検討することとなった。 平成26年度事業計画・収支予算者について承認を得た。

## IV 収益事業

### 1. 家賃収入事業

本財団は1階部分に2店舗を所有しており、其々の事業主に賃貸した。